



京都 立命館×東北のつながり

校友大会 詳報

約36万人の校友が国内外で活躍する立命館大(京都市)の「オール立命館校友大会2018 in 仙台」が10月20日、仙台市青葉区の仙台国際センターで開催された。北海道・東北エリアでは初めての開催で、全国から約1100人の校友が集い、交流を深めた。東日本大震災後、岩手、宮城、福島各県への支援を続けている立命館大の校友会。大会のメインに防災シンポジウム「100年に一度をわがことに～災後をともに生きる～」を据え、被災地から記憶の風化防止、災害への備えの大切さを呼び掛けた。災害を忘れないのは被災のためだけでなく、自分の命を自分で守るための教訓。そんな思いを胸に刻み、校友会は来年、設立100周年を迎える。



茂山千五郎家一門による狂言「蝸牛」の一場面

狂言大蔵流 茂山千五郎家公演 笑いの伝統芸 満喫

一般市民も対象にした「立命館大学デミック企画」では、能楽師狂言方大蔵流・茂山千五郎家の公演があり、室町時代から650年続く笑いの伝統芸が約700人の観客を魅了した。十四世茂山千五郎さん一門の5人が、最も有名な「附子」と「蝸牛」の2演目を披露した。附子は、主人の留守中にお金を開けて砂糖を食べてしまった使用人たちが、いともたやすく罪を被る物語。蝸牛は、長寿の薬としてカツムリを捕まえてくるように命じられたものの美物を使わない使用人と、それをたまたま山伏との掛け合いが見どころだ。公演に先立って、立命館大文学部で日本史を学んだ一門の茂山逸平さんが「狂言は日本で一番古い笑いの芝居。気軽に楽しんでほしい」と観賞のポイントを紹介した。観客たちは大きな声でユーモアたっぷりに演じる狂言師の姿に大笑いしながら、その魅力にも浸った。

震災の教訓 胸に刻んで

出席者

◇パネリスト

立命館災害復興支援室副室長兼大学院公務研究科教授(元陸前高田市副市長) 久保田 崇氏
笹かまぼこ「ささま」(名取市)専務(1976年文学部卒) 佐々木靖子氏
元小学校教諭(相馬市、1981年法学部卒) 村田 恭一氏
一般社団法人ならはみらい(福島県楡葉町)職員(2017年産業社会学部卒) 西崎 芽衣氏

◇コーディネーター

河北新報社防災・教室(1995年国際関係学部卒) 大泉 大介部次長

防災シンポジウムの第1部では、岩手、宮城、福島の校友と大学関係者の4人がそれぞれの立場から、震災の教訓、災害への備えの大切さを訴えた。名取市上野の自宅、本社、工場が津波で流出した佐々木さんは「閉上には『津波は来ない』という言い伝えがあり、避難行動が遅れた人が多い」と振り返る。その上で「かつて仙台野を襲った慶長、貞観の津波はごく一部にしか知られていなかった。各地で言い伝えを検証、再

防災シンポジウム 第1部



それぞれの立場から震災の教訓を語り、避難の重要性を訴えたパネリスト。左から久保田氏、佐々木氏、村田氏、西崎氏

言い伝え検証再考を 避難が何よりも重要 支える人はどこにも 多くのことを伝えたい

久保田氏 佐々木氏 村田氏 西崎氏

考する機会を持つてほしい。同前高田は想定10倍の高さの津波が来たが、真備町はほぼ想定範囲で浸水した。マップに従って逃げていけば助かった人が犠牲が出た」と悔やむ。原発事との思いを口に。震災時、東京の高校生だった西崎さんは立命館大を経て楡葉での暮らしを選んだ。「多くの人が出会ったことで、楡葉のこと、震災のことを家族、友人に伝えなくてはという気持ちが生じた。今、各地で災害が起きている。私自身も出向きでできるだけのことを自分のこと、わがことと考えたい。そこで経験された方々の思いを継いでいこう」と話した。校友会東日本大震災復興支援特別委員会の川下史朗委員長は「シンポジウム終了後、『忘れてはいけない』という思いを新たにしたい。これまで得た教訓を校友それぞれが地域で伝えてほしい」と訴えた。



防災シンポジウムの第2部は、防災食「さんまの缶詰」のミニセミナーと試食会。缶詰は、日頃から災害に備える機運を高めようという校友会のネットワークを生かして発足したプロジェクトで商品化した。ミニセミナーでは、開発に携わった京都市の料亭「木乃婦」の高橋拓

京都の料亭×宮城の水産加工会社

防災食「さんまの缶詰」披露

第2部 ミニセミナー

県代表取締役「写真左」宮城の水産加工会社「木の屋石巻水産」の持ち株会社「木の屋ホールディングス」の代表取締役社長「写真右」が開発秘話や商品の特長などを解説。高橋さんは「毎日食べても飽きない味付けにした。木村さんは『きちんと保管すれば10年後もおいしく食べられる』と保存食としての有益性をPRした。缶詰は梅味とさんしょう味の2種類で、1年400円(税込)だ。試食した来場者からは「魚本来の味が感じられた」「防災食と思えないほどおいしかった」といった感想が聞かれた。

JR仙台駅でパネル展示 最新の学術成果PR



錯視の分野では、目の錯覚を利用した作品を見て摩訶不思議な世界を体験

立命館大の最新研究を広く伝えようと、JR仙台駅2階コンコースでは、音響工学やロボティクスなど6分野の研究成果をパネル展示した。京都物産展も併せて行われ、駅の利用者が京都発の学問や文化を楽しんだ。古気候学の分野では、福井県の水月湖に7万年前から堆積した有機物や鉱物質の層が作り上げた「年輪」と呼ばれるしま模様様の研究成果を紹介。年代測定や気候変動の解

京料理 木乃婦 木の屋 石巻水産 立命館大学校友会



株式会社木の屋ホールディングス 代表取締役社長 木村 長努 (1977年経済学部卒業)

株式会社木乃婦 代表取締役 高橋 拓児 (1991年経済学部卒業)



*収益の一部は宮城県「子どものたより場」プロジェクトに寄付いたします。
「KINOBUYA PROJECT さんまの缶詰」実山椒 梅
【価格】400円(税込) 【発売・販売】株式会社 木の屋石巻水産

お問い合わせ 立命館大学校友会事務局(立命館大学総務部校友・父母課)
TEL:075-813-8216

立命館大学一般入学試験は仙台で受験できます。

1月7日(月)出願開始:詳しくは、「2019年度一般入学試験要項」でご確認ください。お問い合わせは 入学センター 〒604-8520 京都府京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8351

立命館大学の入試情報をお届けします。

立命館 入試 検索 QRコードを読み込んでサイトをチェックしよう!

